

安全上のご注意

据え付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、据え付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

表示を無視して、誤った取り扱いをすることによって生じる内容を次のように区分しています。

お守りいただく内容の種類を次の表示で区分しています。

 警告 「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。	 注意 「軽傷を負う、または財産に損害を受けるおそれがある」内容です。	 してはいけない「禁止」 内容です。	 必ずしなければならない「強制」 内容です。
--	---	--	--

据付工事の完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。
また、この工事説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

警告

- ・据え付け・移設・廃棄は、お買いあげの販売店、または専門業者に依頼し、工事には必ず当社付属部品及び指定の部品を使用して確実に行う。
据付工事は、この工事説明書に従って確実に行う。
(室内機・室外機の落下や水漏れ、火災、感電の原因)
- ・据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
(強度不足や取り付けが不完全な場合は、室内機・室外機の落下により、ケガの原因)
- ・電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」、及び工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
(電源回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因)
- ・漏電しゃ断器を取り付け。
(漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電、火災の原因)
- ・電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
(ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください)
- ・据付作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。
(冷媒が漏れ、滞留し、火気に触れると、まれに引火し、有毒ガスが発生する原因)
- ・室内外ユニット間配線は、途中接続やより線の使用をせず、所定のケーブルを使用し、端子板へ確実に接続する。
(接続や固定が不完全な場合は、故障や発熱、火災の原因)
- ・室内外ユニット間配線は、端子板カバー(コードクランプ・コード押さえを含む)が浮きあがらないように整形し、カバーを確実に取り付ける。
(カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因)

- ・配管、フレアナット、工具はR32またはR410A専用のものを使用する。
(R22用では、機器の故障のほか、冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- ・フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける。
(フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- ・据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
(冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)
- ・ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
(圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気等を吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガ等の原因)

- ・室外機は、ベランダの手すり近くに設置しない。
(お子様が室外機の上に登り、手すりを乗り越え、落下事故につながるおそれ)
- ・電源コードの加工、途中接続、タコ足配線、ステーブル等での固定はしない。
(接触不良・絶縁不良・許容電流オーバー等により、火災、感電の原因)
- ・指定冷媒(R32)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない。
(機器の故障や破裂、ケガ等の原因)
- ・冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気等を混入させない。
(空気等が混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破壊、ケガ等の原因)

- ・アース(接地)を確実に行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。
(アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因)

注意

- ・ドレン工事は、工事説明書に従って確実に排水するよう配管する。
(不確実な場合は、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因)
- ・新築やリフォームなどの内装工事や床面のワックスかけ時は、エアコンの運転を停止する。
ワックスかけ等の作業後はエアコンの運転前に充分な換気を行う。
(揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因)

- ・室外機の吸込口やアルミフィンにさわらない。
(ケガの原因)
- ・可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へは設置しない。
(万一、可燃性ガスが漏れて室内機・室外機の周囲に溜ると、発火の原因)
- ・室外機は、小動物のすみかになるような場所には設置しない。
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。)

据付工事後の確認（必ず確認してください）

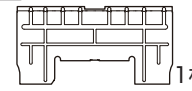

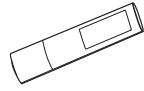
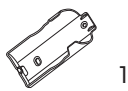



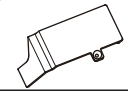

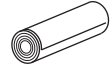


この工事説明書に従って工事しなかったことが原因による故障や事故などは、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

- ☐ 電源電圧は規定どおりか。
コンセントに差し込む前に、電圧をテスターで確認してください。電圧が違くと故障の原因になります。
- ☐ 電源コードは以下のような誤った扱いをしていないか。
切断加工、延長コードの使用、タコ足配線、ステーブル等での固定、室内機本体での圧迫等
- ☐ ユニット間配線の挿入、固定は確実か。
- ☐ ユニット間配線は、途中接続をしていないか。
φ2.0mmVVFケーブル(3心)を使用しているか。
- ☐ アース線の接続は確実か。
- ☐ 漏電しゃ断器は設置されているか。
- ☐ 室内機、室外機は確実に据え付けられているか。
エアコンの重量に十分耐える場所で、騒音や振動が増大しない所に据え付けてください。
- ☐ ドレン排水は確実か。
- ☐ 配管接続は確実か。
配管接続部のガス漏れ検査を実施してください。
- ☐ 2方弁、3方弁は開いているか。
- ☐ 試運転を15分以上行ったか。
- ☐ フィルター掃除は、正常に動作したか。

確認日	工事会社名	確認者
年 月 日		

据え付け・移設・廃棄は、お買いあげの販売店、または専門業者にご依頼ください。
また、この工事説明書は取扱説明書と共に大切に保管してください。

付属品

室内機用（室内機に同梱）					室外機用（室外機に同梱）	
① 据付板  1枚	② 据付板 取付ネジ (長さ25mm)  7本	③ リモコン  1個	④ リモコンホルダー  1個	⑤ リモコンホルダー 取付ネジ(黒色)  2本	⑪① ドレン工事用付属品 ドレンうけ  1個	
⑥ 乾電池(単4形)  2本	⑦ 端子板カバー  1個	⑧ 端子板カバー 取付ネジ(長さ12mm)  1本	⑨ 不織布  1個	⑩ ユニット掃除ブラシ  1個 お手入れに使います。 (据付工事には使いません。) 必ずお客様にお渡しください。	ドレンエルボ  1個	

据付図

据付場所の選定

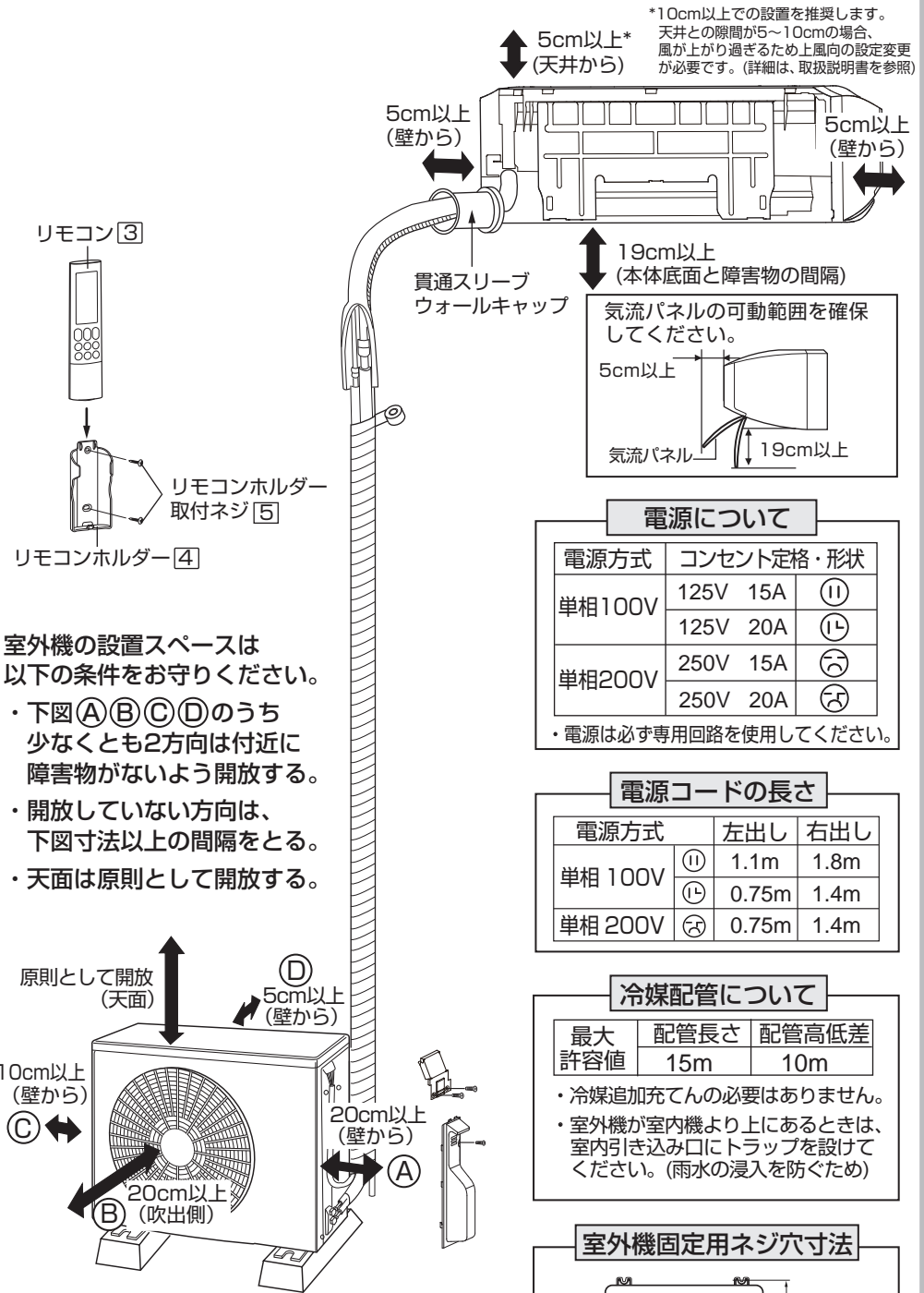
下記の項目に注意して、お客様の同意を得て据え付けてください。

室内機

- ・吹出口付近に障害物がなく、部屋全体に風がゆきわたるところ。
- ・ドレン排水と配管穴をあけるのが容易なところ。
- ・本体周囲に据付図の矢印のスペースが確保できるところ。
- ・サンルームや温室など、直射日光が長時間あたるところへは据え付けしないでください。
- ・エアフィルターを取り出せるところ。
- ・本体及びリモコンからテレビ、ラジオ、電波時計等を1m以上離してください。
- ・空気吸込口の周囲には、空気の吸込の妨げになるようなものを置かないでください。
- ・電子式瞬間点灯方式及びラピッドスタート方式の蛍光灯を付けた部屋では、リモコンが正常に動作しないことがあります。
- ・運転音や振動が増大しないようなところ。
- ・エアコン吹出口が火災警報器から1.5m以上離れたところ。
- ・部屋の外の温度・湿度が高いとき、冷房運転の際に、断熱材のない壁および天井に発露する場合があります。

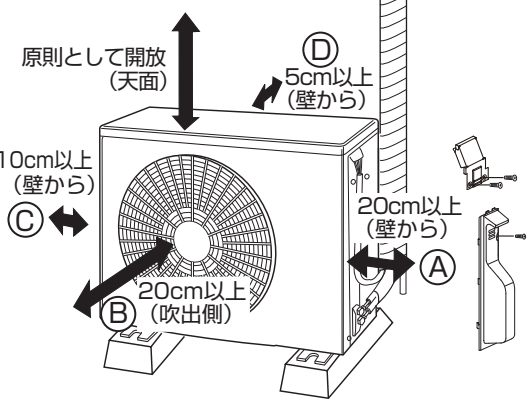
室外機

- ・騒音が増大しないように、重量に十分耐えるしっかりした台に水平に据え付けてください。振動が大きい場合は、市販の防振ゴムを使用いただくとう改善する場合があります。
- ・風通しが良く、本体周囲に据付図の指示どおりにスペースがとれるところ。
- ・強風が直接吹きつけるところは避けてください。故障や破損することがあります。
- ・雨水のかりにくいところ。
- ・排水されたドレン水が流れても支障のないところ。支障のある場合はドレン工事を行ってください。ただし寒冷地ではドレン水が凍結するので、ドレン工事は行わないでください。
- ・本体からテレビ、ラジオ、電波時計等を1m以上離してください。
- ・近くに熱の発生、可燃性ガスの漏れ、またはたまるおそれのないところ。プロパンガス容器からは、2m以上離してください。
- ・機械油の多いところや、海浜地区等塩分の多いところ、温泉地帯、硫化ガスのあるところ等、特殊な場所で使用すると、故障の原因になることがあります。
- ・道路沿いなどで泥水のかかるところや、いたすらされやすいところには、できる限り据え付けしないでください。
- ・吹出口からの熱風や運転音が、隣家の迷惑にならないような場所をお選びください。
- ・積雪等で吸込口や吹出口がふさがれないところ。





室外機の設置スペースは以下の条件をお守りください。

- ・下図①②③④のうち少なくとも2方向は付近に障害物がないよう開放する。
- ・開放していない方向は、下図寸法以上の間隔をとる。
- ・天面は原則として開放する。



・設置スペースは、据付場所に余裕があれば、効率の良い運転のためにできるだけ広く取ってください。

室外機用（室外機に同梱）

- ⑪① ドレン工事用付属品
ドレンうけ
 1個
- ドレンエルボ
 1個

電源について

電源方式	コンセント定格・形状	
単相100V	125V 15A	㊶
	125V 20A	㊷
単相200V	250V 15A	㊸
	250V 20A	㊹

・電源は必ず専用回路を使用してください。

電源コードの長さ

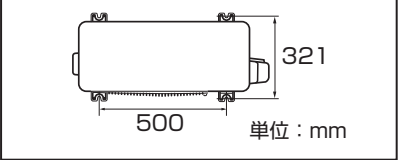
電源方式	左出し	右出し
単相 100V	㊶ 1.1m	1.8m
	㊷ 0.75m	1.4m
単相 200V	㊸ 0.75m	1.4m

冷媒配管について

最大許容値	配管長さ	配管高低差
	15m	10m

- ・冷媒追加充てんの必要はありません。
- ・室外機が室内機より上にあるときは、室内引き込み口にトラップを設けてください。(雨水の浸入を防ぐため)

室外機固定用ネジ穴寸法



5 室内機のドレン工事

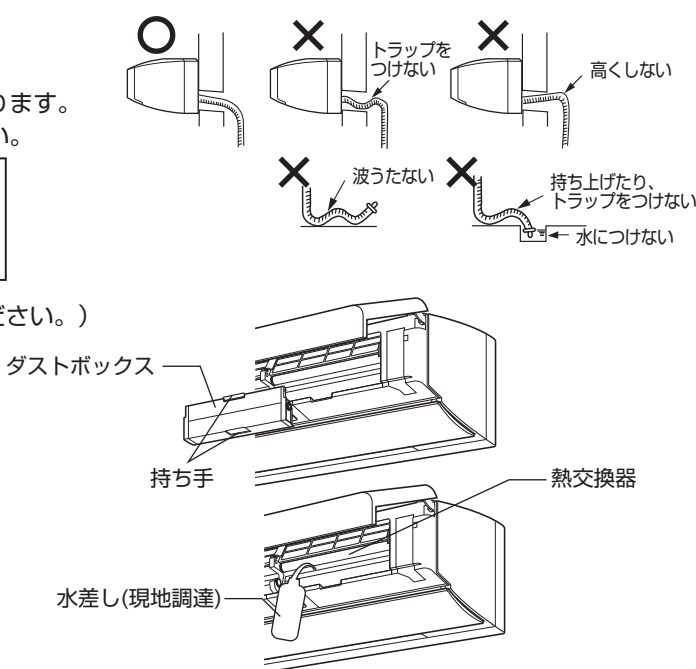
ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように、必ず下り勾配をつけてください。(2°以上)

- ・ドレンホースを延長する場合は、内径16mmのホースを使用してください。
- ・ドレンホースが持ち上ったり、トラップをつけたり、ホースの先が水につからないよう注意してください。水漏れ、異音等の原因となります。
- ・延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてください。

ドレンホースにトラップがあると、高気密住宅などで強い風をうけた時や換気扇などを使用した場合、「ポコポコ」という音が出ることがあります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。

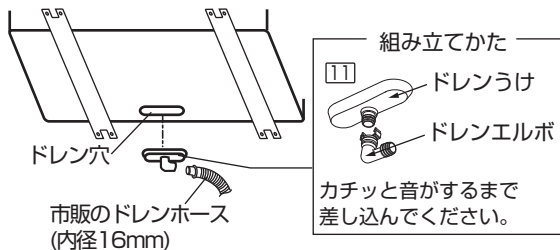
ドレン排水の確認 (ドレン工事終了後、ドレン排水の確認をしてください。)

1. オープンパネルをはずす。
2. ダストボックスをはずす。
持ち手をつかみ、手前に引き出す。
3. 水を熱交換器につたわせて、ゆっくり注入する。
水の勢いが強いと、室内機内部で水が跳ね、水漏れ・故障の原因になります。
※注入するときは水差し(現地調達)などを使用してください。
4. ドレンホースから水が流れていることを確認する。
5. ダストボックスを元どおり取り付け。
6. オープンパネルを取り付ける。



6 室外機のドレン工事

暖房運転時、除霜等により室外機ドレン穴から水が流れ出ます。排水処理をする場合はドレン工事を行ってください。



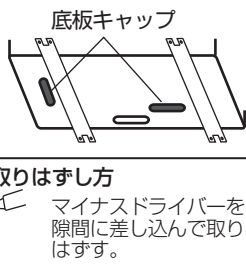
寒冷地でのお願い

寒冷地ではドレン水が凍結するので、ドレン工事は行わないでください。また、底板キャップ(2カ所)を必ず取りはずしてください。底板キャップの取りはずしは、室外機を据付台へ固定する前に行ってください。

寒冷地：日中でも外気温0℃以下の日が2～3日連続する地域

底板キャップの取りはずし方

マイナスドライバーを隙間に差し込んで取りはずす。



7 配管接続

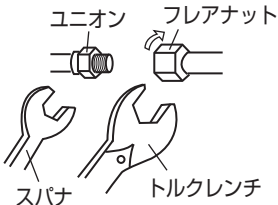
重要！

- ・接続配管は、「JIS H3300」に定める「リン脱酸銅継目無管(C1220T)」で、配管肉厚は0.8mmのものをご使用ください。
- ・配管内への異物（油分、水分等）混入に十分ご注意ください。
- ・通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。
- ・冷媒漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油の塗布をおすすめします。フレア外面やフレアナットネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。オーバートルクによるフレアナットの割れやネジ破損の原因となります。

1. フレアナットは、最初の3～4回を手で締め付ける。
2. トルクレンチを使用し、指定の締め付トルク値公差内でしっかりと締め付ける。
トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてください。
(締め付け不足、及び締め付け過ぎは、冷媒漏れや変形・破損の原因)

フレアナット締め付トルク

		2面幅		適合トルクレンチ
		ユニオン	ナット	
細管側	φ6.35mm(1/4")	12mm	17mm	16±2N・m
	φ9.52mm(3/8")	17mm	22mm	38±4N・m
太管側	φ12.7mm(1/2")	21mm	26mm	55±6N・m

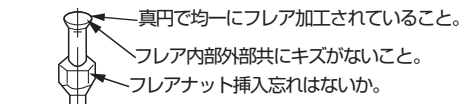


《既設配管再利用時のご注意》

- ・配管肉厚は0.8mmが前提条件です。(JIS規格の配管)
- ・フレアはR32/R410A用に必ず再加工してください。(右記「配管のフレア加工」参照)
- ・古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができない場合や配管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に交換してください。

配管のフレア加工

1. パイプカッターで配管を切断する。
切断面は直角にしてください。
2. バリ取りをする。
切粉を管内に入れないようにしてください。
3. フレアナットを挿入する。
フレアナットは必ずエアコン本体に使用しているものを使ってください。
4. フレア加工をする。
ダイスからの出し代(A)を正しくセットしてください。
出し代(A): 0～0.5mm (R32またはR410A用フレア工具)
5. 確認する。
真円で均一にフレア加工されていること。
フレア内部外部共にキズがないこと。
フレアナット挿入忘れはないか。



フレア加工は、正しく確実に行ってください。不備があると、冷媒が漏れる原因になります。

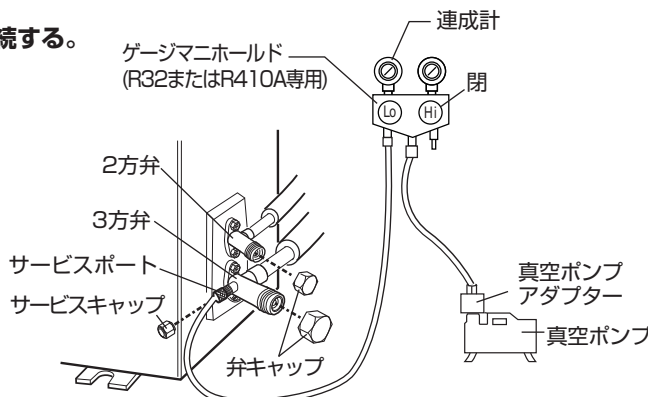
8 エアパーージ・冷媒漏れ確認

重要！

エアパーージ

地球環境保護の観点から、エアパーージは真空ポンプ方式でお願いします。

1. 太管側(3方弁)のサービスキャップをはずす。
2. 3方弁のサービスポートにゲージマニホールドのチャージホースを接続する。
金具のついている側(虫ピンを押す側)を接続してください。
3. ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にする。
4. 真空引きを10～15分間行い、連成計が-0.1MPa(-76cmHg)になっていることを確認する。
5. ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にする。
6. 真空ポンプを停止する。
1～2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認してください。(接続部の漏れ確認のため)
7. 細管側(2方弁)、太管側(3方弁)の弁キャップをはずす。
8. 2方弁の弁棒を六角レンチ(4mm)を使って、反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ冷媒漏れの確認をする。
9. サービスポートからゲージマニホールドをはずす。
10. 2方弁を全開にする。
(当たりがあるところまで回してください。)
11. 3方弁を全開にする。
(当たりがあるところまで回してください。)
12. 2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付ける。
トルクレンチを用いて、指定の締め付トルク値公差内で、しっかりと締め付けてください。



弁キャップ締め付トルク

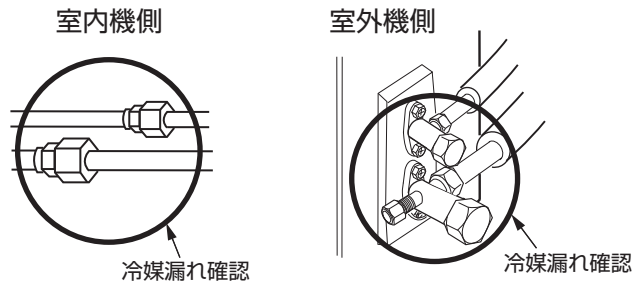
	キャップの2面幅	適合トルクレンチ
細管側	φ6.35mm(1/4")	19 mm
太管側	φ9.52mm(3/8")	19 mm
	φ12.7mm(1/2")	22 mm

サービスキャップ締め付トルク

キャップの2面幅	適合トルクレンチ
17 mm	11±1N・m

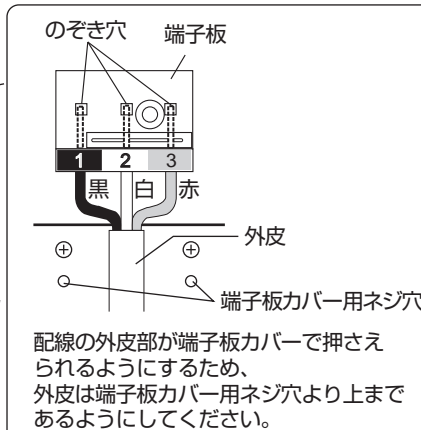
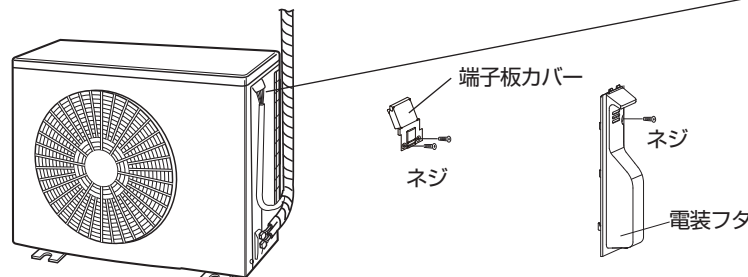
冷媒漏れ確認

室内機側はフレア部周辺を、室外機側はフレア部周辺・弁棒周辺を、石けん水を塗布してチェックしてください。チェック後は、ていねいにふき取ってください。リークディテクターで冷媒漏れ確認をする場合はHFC冷媒対応のものを使用してください。



9 室外機のユニット間配線

1. ユニット間配線を加工する。
2. 電装フタと端子板カバーをはずす。
3. ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入する。
のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。
配線は必ず、室内機の端子板の番号と合わせてください。
4. ユニット間配線の外皮を端子板カバーと固定ネジ(2本)で固定する。
5. ユニット間配線が確実に固定されているか確認する。
6. 電装フタを取り付ける。



警告

VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があります。

10 アース工事・漏電しゃ断器

アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って行ってください。

アース工事

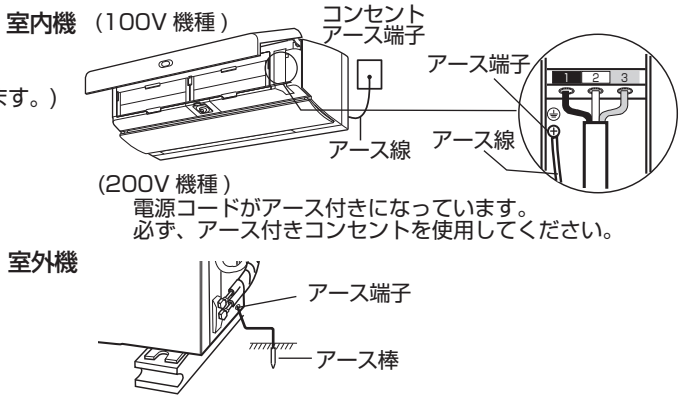
必ずアース工事を行ってください。

(行っていないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、電気を感じる場合があります。)

- ・アース工事は、電気工事士の資格がある方が行ってください。
- ・接地抵抗は100Ω以下にしてください。
- (漏電しゃ断器を取り付けた場合は500Ω以下にしてください。)
- ・アース棒およびアース線は市販品を使用してください。
- ・室内機・室外機のいずれか一方に対し、アース工事をしてください。
- ・製品に取り付けているアース端子以外のネジは絶対に使用しないでください。(配管の損傷により、冷媒が漏れる原因となります。)

漏電しゃ断器について

- ・万一漏電したときの感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してください。
- ・漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作高感度高速タイプを使用してください。



11 リモコンの設定（部屋形状・据付位置）/センサーの向き設定

必要に応じ、リモコンで 設定を行ってください。お部屋に合った送風調節をします。
(詳しくは取扱説明書を参照)


部屋形状の設定

(初期設定は「正方形」)

部屋形状に合わせて風量を調節します。

部屋形状が以下のときに、設定してください。

タテ長	縦の長さが、横の長さの1.5倍以上のとき
ヨコ長	横の長さが、縦の長さの1.5倍以上のとき

1. 「メニュー」ボタンを押して、「部屋形状」を選ぶ。
2.  ボタンを押して、部屋形状を選ぶ。

正方形	タテ長	ヨコ長
		

3. 本体送受信部に向けて、「決定」ボタンを押す。


据付位置の設定

(初期設定は「中央」)

風をお部屋の中心に送るよう、送風範囲を調節します。

据付位置が以下のときに、設定してください。

左	エアコン左端と左壁との距離が50cm以内のとき
右	エアコン右端と右壁との距離が50cm以内のとき

1. 「メニュー」ボタンを押して、「据付位置」を選ぶ。
2.  ボタンを押して、据付位置を選ぶ。

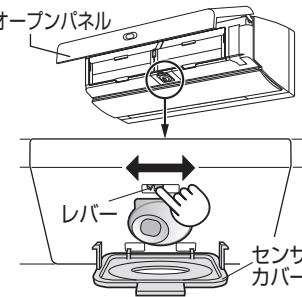
中央	左	右
		

3. 本体送受信部に向けて、「決定」ボタンを押す。

センサーの向き設定

センサーがお部屋の中央に向くように合わせてください。
(詳細は取扱説明書を参照)

1. オープンパネルを開く。
2. センサーカバーを開く。
3. レバーを指で動かして向きを合わせる。



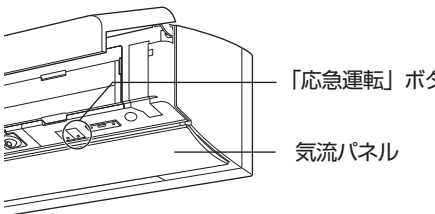
12 試運転（必ず行ってください）

試運転は、15分以上行い、風が冷えている(暖まっている)ことを確認してください。

1. 本体の「応急運転」ボタンを押して、運転を開始する。
2. (冷房の試運転) 運転中に、本体の「応急運転」ボタンを5秒以上押し続ける。
 - ・ピッと音がし、運転ランプが点滅して強制冷房運転になります。
3. (暖房の試運転) 強制冷房運転中にリモコンの「暖房」ボタンを押す。
4. 試運転を停止するときは本体の「応急運転」ボタンをもう一度押す。

試運転中に下記症状になった場合は、ご確認ください

- ・タイマーランプ(橙)が点滅：ユニット間配線が正しいかどうか。
- ・冷風(温風)が出ない：2方弁、3方弁が開いているか。



必ず気流パネルを取り付けて試運転をしてください。
気流パネルを取り付けていないと正しい確認ができません。

13 フィルター掃除の動作確認

フィルター掃除の動作確認の前に、輸送用緩衝材やテープが室内機に貼り付いていないことを確認してください。

1. 停止中に、 を押して「フィルター掃除」を選ぶ。

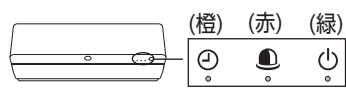
本体のプラズマクラスターランプ(水色)が点灯し、フィルター掃除が始まります。

2. 約5分後、エラー表示が出ないことを確認し、リモコンの「停止」ボタンを押す。

エラー表示が出た場合

ダストボックスとエアフィルターが正しく取り付けられているか確認してください。

エラー表示（下記ランプが同時に点滅）



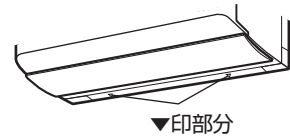
必要なときに

同じ部屋に当社のエアコンを2台設置するとき

1つのリモコンで2台が動作しないように、信号設定を切り換えることができます。
(詳しくは取扱説明書を参照)

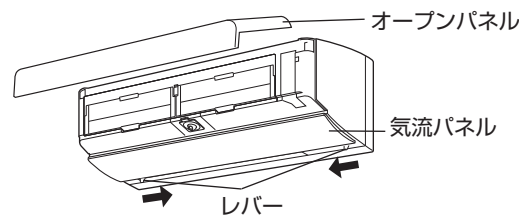
室内機を据付板から取りはずすとき

本体底面の▼印部分(左右2カ所)を押し上げ、ツメを浮かせながら本体を手前に引く。
本体底面のツメが据付板からはずれます。



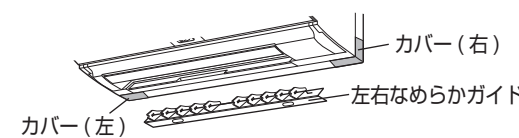
前面パネルを取りはずすとき

1. オープンパネルを取りはずす。
ほぼ水平位置まで開き手前に引く。
2. 気流パネルを取りはずす。
 - ① 気流パネル下部のレバーを左右同時に中央方向に押し、ロックを解除する。

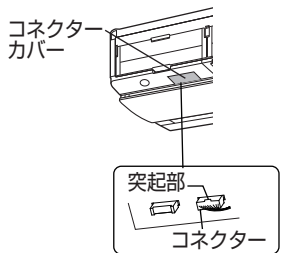


- ② 気流パネルを少し開き上に浮かして取りはずす。

3. 左右なめらかガイドを取りはずす。
4. 左右下側のカバーを取りはずす。

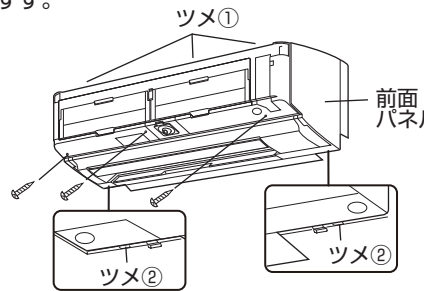


5. コネクターカバーを取りはずす。
マイナスドライバー等を差込みはずす。
6. コネクターを抜く。
突起部を押しながら抜く。



7. ネジ(3本)をはずし、前面パネルを取りはずす。

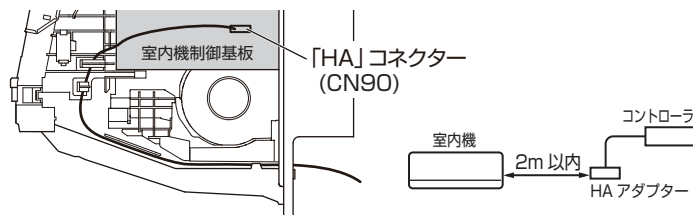
- ① 前面パネル上部のツメ(3カ所)をはずす。
- ② 左右の下側裏のツメを押し上げてはずし、前面パネルを取りはずす。



HAアダプター(市販品)と接続するとき

接続ケーブルを室内機制御基板のコネクター(CN90)に接続する。

- ・「HA」コネクターはJEM-Aに適合するHA端子です。
- ・「HA」コネクターからHAアダプターまでの配線の長さは、室内機から2m以内としてください。



ポンプダウン

移設など、エアコンを取りはずす時は、地球環境保護のため、冷媒の回収(ポンプダウン)を必ず行ってください。

1. 3方弁のサービスポートに圧力計(ゲージマニホールド)を取り付ける。
2. エアコンを強制冷房運転させる。(5～10分間程度)
強制冷房運転は、(12 試運転)を参照してください。
暖房運転ではポンプダウンはできません。
3. 2方弁を全閉にする。
4. 圧力計がほぼ0MPa(0kgf/cm²)になるのを確認後、すみやかに、3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させる。
長時間、運転し続けると故障の原因になります。
5. 圧力計(ゲージマニホールド)を取りはずし、接続配管をはずす。

警告

下記の注意事項を守らないと、コンプレッサーが破裂し周囲に部品が飛び散り、工事業者自身が重篤なケガをする恐れがあります。

- ・ポンプダウン開始前、冷媒漏れのないことを確認する。
- ・配管折れ等により冷凍サイクル内に冷媒がない場合はポンプダウンをしない。
- ・ポンプダウン作業時には、閉鎖弁を閉じた後、配管をはずす前にコンプレッサーを停止する。

